

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 茅ヶ崎 地区

2. 主な地区特性

【土地柄・人など】

・代々住んでいる方も多いが、市内でもマンションが多い地区である。
・駅周辺のマンションは、高齢化率も高く、一人暮らしの方も見られる。さらに駅から離れた比較的新しいマンションには若い世代の居住者が多い。

【生活・交通など】

・市の中心に位置し、大きな駅を中心に公共の施設も充実しているが、東西に長い地区なので利便性については、地区内で差がある。
・駅周辺は人の流動が多く、犯罪発生率が高い。また、歩道を走る自転車が多数。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 地区社協では、高齢者対象の行事（お楽しみ交流会や福祉まつり）に男性参加者を増やしたいと考えている。
- 毎年12月に81歳以上の方にホカロンを配っているが、地区との交流が少ない方に対して何かできないかを検討中。
- 自治会の当番ができない為に自治会をやめることに悩んでいる高齢者に対して、自治会長の考え方により情報提供や防災等について違いがあり、民生委員が間に入って困っているとの意見があった。
- 農協ビルの3階の大広間を椅子対応にしてほしい。

【外出支援にかかわる課題】

- 地域が違う友人と一緒にのサロン等に行きたい。隣の地区のサロンのほうが利便性が良く参加しやすい。
→参加資格が地区住民に限定されている／定員いっぱいでない場合は、参加資格を緩和できるか。
- 新たなサロンを開設するのに場所の確保が難しい。→マンションの集会所等が活用できるか
- 一時的に車いすの使用が必要になった際の外出支援に対して、支援者が見つからない。
→ボラセンちがさきでは定期的に車いす研修も実施しているが、茅ヶ崎地区は道路状況や自転車、人の流動等の安全面等で対人援助の支援希望者を見つけるのが難しい。
- 歩道を走る自転車のマナーが良くない事について、高齢者は迷惑している→市民集会で検討（9/9）

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 毎年12月に81歳以上の方にホカロンを配っているが、地区との交流が少ない方に対して何かできないかを検討中。
- ボラセンちがさきでは、定期的に車いす研修を実施している。

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（市から入手）
- 地区内のマンションの自治会長さんにサロン等の開催について調査

5. 関連資料など

- ・地区社協「茅ヶ崎」44号（平成29年9月版）
- ・ボラセンちがさき 11号（平成30年7月版）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 茅ヶ崎南 地区

2. 主な地区特性

【土地柄・人など】

- 地域のエリアは大きく共恵・幸、若松町、中海岸に大別できる。
- ・共恵・幸 → 旧住民と新住民が混ぜこぜの地域で、商店も多い。
- ・若松町 → 1960年頃に宅地開発が始まり、現在も子育て世代の流入がある。年齢層の広い地域。
- ・中海岸 → 自治会単位の意識が強く、地域・世帯ともに自己完結的なイメージのある地域。

【生活・交通など】

- 駅から旧南湖院(結核療養所。現在は無い)にかけての共恵海岸通りは日本で最初に舗装された道路だそう。
- 通り沿いには小売店が多くあったが、現在はかなり減ってきている。
- 神奈中バス・コミバス共に地区内にルートがあり、駅付近まで出れば一通りの買い物が済む。

3. 地区の課題(現在共有されている課題や、地区の方の声など)

- 地区内の個別の困りごとを地区ボラセンでキャッチする事が出来始めている。
→ 困難事例に対しては、専門機関も加わりボラセンを支援していく連携の形を形成する必要あり。
- 今後見込まれるボランティア減に対しての取り組み
- 共恵では高齢化も進んでいる。一定の人口流入もあるようなので、若い世代や、地域に多い商店などの力を借りながら住民の繋がりを深めていく取り組みが必要との声がある。

【外出支援にかかわる課題】

- サロン箇所が少ない
- 若松町方面に集会施設が無い(クラウンがあった時には、その二階を自治会の会議等で使用していたが...)
- 若松町から駅を越え高砂コミセンに行くとなると「足が無い」との声が聞かれる。駅を越えて出かけて行くことについては、心理的な距離感があるよう。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 地区内の個別の困りごとを地区ボラセンでキャッチする事が出来始めている。

【今後取り組みたいこと等】

- 地区内人口年齢層の他地区との比較
- 若松町方面の拠点となり得る資源の調査
- サロン開設希望の有無(アンケート調査)
- 現役世代がボランティア活動を行うにあたって障壁になっている事
- 民生委員への移動に関するニーズの聞き取り(お楽しみ会への出席誘い掛けは民生委員が行う為、移動手段が無い為参加出来ない方の存在を確認できるか)

5. 関連資料など

- ・地区内の施設、バスルート、マンション、スーパー・小売店などのマップ

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 海岸 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・市南部の相模湾沿いの地区の真ん中にあり、茅ヶ崎駅南口から徒歩で最長30分圏内に位置する。
- ・市の文化施設や商業施設も多くあり、環境に恵まれた住宅地域である。
- ・幅は狭いが平坦な道が比較的多い。住宅が密集したクラスター地域である。
- ・大きな通り（一中通り、雄三通り、ラチエン通り、鉄砲道等）には飲食店やコンビニエンスストアが多く、栄えている。
- ・大きな通りには神奈中バスと巡回バスえぼし号も通っているが、一本路地に入ると交通の便が悪いため、大きな通りまで出るのに一苦労する人がいる。

【土地柄・人など】

- ・比較的生活水準が高く、自己完結型である →課題が顕在化しにくい。
- ・自治会意識が高い。12の自治会に分かれており、それぞれ活動が盛んである。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 集まる拠点が無い。
→自治会毎に自治会館があるわけではなく、活動の主な拠点である福祉会館と東海岸会館が今年度中に閉鎖することが決定している。
→海岸地区コミュニティセンターは2階建てで、高齢者には使用しづらいとの声が出ている。
- 自治会長や民生委員児童委員、VCコーディネーターなどの兼任が多く、特定の人に負担が多い。
- その反面、新たな人が加入しづらい雰囲気がある。 →子育て世代の親が孤立しがちである。
- いわゆるサーファー族など若い世代が居住する一方、高齢者も多い。

【外出支援にかかわる課題】

- 福祉会館、東海岸会館など各地域に点在していた拠点の閉鎖により、身近な居場所がなくなる。
- 福祉会館で活動していたサロン・VG等の新たな活動場所のフォロー・受け皿について、フォーマルな資源（集会施設等）を市と、インフォーマル資源（空き家、民家等）を地域住民と把握する必要がある。
- 小地域で身近な居場所作りを行うべく、新たな居場所の立上げをする士気が高まっている。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- VC移転に伴い、新拠点活用ルールづくり
- 身近な居場所作りを行うためのミニデイ・サロンの立上げ準備

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（市から入手）
- 集会場所の一覧化（民児協作成マップとの協働）
- 地区内における拠点についての動向把握（会議への出席等）
- 既存の集会場所利便さ等について、地域資源アセスメントの実施（ヒアリング、現地調査）

5. 関連資料など

- ・海岸地区福祉マップ（2017.10月版）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 南湖 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・6つの自治会に分かれ、地区内は比較的平地が多いが、東側に坂あり。
- ・北（国道一号線）、中央（鉄砲道）、南（国道134号線）に交通量の多い道路がある。
- ・上記道路には神奈中バスのほか、中道にはコミバスも通っている。
- ・地区内は住宅が密集しており、狭い道が多い。
- ・集会施設が南側に集中している。
- ・地区内にスーパーやコンビニは少なく、買い物は隣接する地区へ行く。
- ・小児科、内科、産婦人科が地区内にあり、整形外科も隣接する地区（買い物と同様）にある。
- ・消防署分署も地区内にある。

【土地柄・人など】

- ・昔から住んでいる住民と新規住民が混在。
- ・地区社協、まちぢから、各学校等の地区の団体間の連携が良い。
- ・男性の意見が強い気がする。（VCのCoも男性が多い）

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

●地区内にスーパー等が少ない。

⇒スーパー等の配達サービスや宅配サービスの確認と、マップの作成の検討。

●集会施設が南側（南湖会館、南湖公民館、しおさい南湖）に偏っている。

⇒包括が「ふれあいの麗寿」の一室でのサロンを検討。

⇒各自治会館の利用検討。

●障害児者への対応。過去の理事会にて「福祉とは高齢者だけでない」との意見あり。

⇒地区内の施設状況の確認。

●地区での困りごとの受けいれ

⇒地区と福祉相談室の連携が取れている一方、「相談室へ連絡する必要はないのでは？と思うものも流れている」と福祉相談室よりあった。相談の内容を確認し、検討する必要がある。

【外出支援にかかわる課題】

●地区の内部に入ると道が狭い。車通りも多い場所に関しては事故の可能性もある。

●集会施設が南側（南湖会館、南湖公民館、しおさい南湖）に偏っている。

- ・現在の集会所でのサロンに地区北部の方は、距離的に通にくい。

⇒ふくしの集いは、市社協の車を貸出し対応。普段のサロン時に難あり。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

●一部の理事より、「送迎ボランティア」の話が出ていたため、形に出来るよう動いていきたい。

●集会施設の偏りについては、包括が主導で動いている「ふれあいの麗寿」の一室を利用したサロンを中心に、情報提供と把握に努めたい。

【今後取り組みたいこと等】

●地区、各自治会ごとの高齢化率の調査。

●買い物場所や利用する交通手段の調査。

●現在ある集会施設と、今後集会施設になり得る施設の発掘。

5. 関連資料など

- ・南湖福祉情報ガイド（平成26年4月版）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 湘南 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・平塚市との市境の地域。
- ・産業道路、国道一号線、国道134号線など大きな道路が地区内を通っている。
- ・大通り沿いにしかバスが通っておらず、浜見平より西寄りの地域は、生活の「あし」がない高齢者が多い。
- ・団地の建て替えに伴う再開発が進んでいる他、スポーツ公園が今年3月に開設。道の駅の建設も進められている。
- ・生活に必要な施設が浜見平周辺に集中している。

【土地柄・人など】

- ・昔から住む地の人が多く、つながりが強い。親族の助けあいなども濃く残っている。
- ・結婚し、戻ってくる若い世帯が増えている。
- ・歴史や伝統を守って受け継いでいこう、と意識している人が多い。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 地域活動に携わっている人が恒常化しており、後継者が不足している。（*1）
- 浜見平団地の高齢化が進み、高齢化率が50%近い。身寄りが少ない、家族が近くにいないといった独居高齢者の見守り、認知症や孤独死などが課題となっている。（*2）
- 団地建て替え時に、経済力がなく家賃が上がった新しい団地に移れず、低家賃の古い団地へ越した世帯が複数ある。古い団地の取り壊し時期が来た時に、同様に経済的な理由で立て替えた棟へ移住できず、新たな住居がスムーズにみつからない住民がでてくることが予想される。
- 昔から住む地の人が多いことから、地のつながりが強く、新たに越してきた住民が地域の中に入りづらい雰囲気がある。

【外出支援にかかわる課題】

- 生活に必要な施設が浜見平周辺に集中しているが、大通り沿いにしかバスが通っておらず、浜見平より西寄りの地域は生活の「あし」がない高齢者が多い。特に中島地域は商業施設などの資源がなく、買い物しづらい状況にある。（*3）
- スポーツ公園の開設を機に、住民はバス路線の拡大など要望したが、叶わなかったとのこと。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 地区VCの活動によって、団地やマンション自治会と、それ以外の自治会との自治会を超えたつながりが深まり、地域の課題を一緒に考える下地ができてきた。
- 地区VCが支援に入ることで、地域課題に住民が気付きやすくなった。
- CO.配置事業を始めたことで、地域課題を共有しやすくなった。また、地域の中で課題を解決していこうという意識が強くなった。
→ここでの話し合いから、地域の活動者を増やすことを目的とした取り組みが生まれた。

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（市から入手）
- 地域の活動者を増やす取り組みの実施と参加者へのアンケート実施（地域活動に関する意識調査）
- 地域住民と行った、地域アセスメントによって把握した社会資源等の現状確認（「まち歩き」など）

5. 関連資料など

- ・湘南地区支援チーム主催イベント 湘南地区MENデビューへの道！（第3弾チラシ、第2弾報告 回覧）
- ・湘南地区まちぢから協議会 MAP（福祉関連部分抜粋）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 鶴嶺東 地区

2. 主な地区特性

【土地柄・人など】

- ・古くからの果樹園や畑、農家等がある地域と、分譲住宅のほか、近年では大型マンションが建設されるなどしておりバラエティーに富んだ地区である。
- ・TBS、ホームタウン、サニータウン、アイランズが大きな集合住宅団地であり、他の自治会についてはもともと農家だった地域が多い。円蔵、矢畑、下町屋、西久保、浜之郷は広い地域でもある。
- ・人口が多い地区でもあり、古くからの行事や自治会活動、地域活動などは比較的熱心な傾向がある。

【生活・交通など】

- ・交通手段は自転車が多い。駅までも徒歩は可能な圏内。
- ・コミュニティバス、神奈中バスなどの路線が通っている。
- ・大型スーパー、コンビニなどがあり、買い物などは割合に便利と感じている住民が多いよう。
- ・エリア内外に病院や施設も点在している。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

●高齢化

- ・集合団地の急速な高齢化。円蔵や浜之郷など古くからある地域からのボランティア依頼も多い。
- ・認知症高齢者の増加。高齢の親と引きこもりの子どもなど5080問題のケースが増加している。
- ・空家も散見される。

●若い世代とのつながりの課題

- ・集合団地に新しい家族が入り始めている。若い母親は横のつながりが作りにくいよう。
- ・高齢世代は熱心に地域活動を行うが、なかなか若い世代は入りづらいのではないかとと思われるところがある。
- ・共稼ぎ世帯が増え、自治会とも関係が薄くなってきている。

●地域活動の担い手の発掘 → 様々なスキルを持ったボランティアの発掘。

●サロン活動の課題共有 → 立上げ後、継続していく中で内容の検討など様々な課題が上がっている。

【外出支援にかかわる課題】

- 店舗は比較的多い地域だが、外出が困難な高齢者等はやはり買い物などで困っており、地区ボランティアセンターへ依頼が入っている。
- 利用者及び担い手の高齢化
→ サロン利用者が高齢化し、車椅子介助が必要な方や認知症状が見られ1人で帰らないよう気を付けなければいけない方が出てくるなど、担い手側の負担が増えてきている。
- 独居の高齢者、障害者の通院付き添いなどの課題があり、ボランティアセンターにも依頼が入っている。

4. 課題解決に向けた取り組み など

【課題への取り組み等】

- 福祉相談室や地区ボラセンでも相談を受けながら対応している。
- 地区社協活動でイベントに協力したり、地区ボラセンでも中学生の体験受入れなど、若い世代ともつながりを模索している。
- 自治会単位でサロンが出来てきており、横の連携作りの取り組みをまちぢから協議会で始めている。
- 地区社協で認知症について地区懇談会で勉強したり、サロンで障害者の誘導方法について行うなどの取り組みを行っている。
- コミュニケーション会議を地区社協が立ち上げ、地区内の課題を幅広い見地から検討する機運が出ている。

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（市から入手）
- 引きこもり、精神・発達障害等が窺える家族への支援状況（市担当課へのヒアリング）

5. 関連資料など

- ・ 鶴嶺東地区社協広報「つるみね」（平成30年8月号）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 鶴嶺西 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・生活路は平地。移動は自転車利用も多い（元気な人）。
- ・バス路線は茅ヶ崎～寒川駅間と、茅ヶ崎駅・市立病院が起点のコミバスがある。
- ・大通り（縦・横）にスーパー、ドラッグストア等あり。
- ・地区内の開業医は2軒（内科・胃腸科・外科と小児科が1軒ずつ）。

【土地柄・人など】

- ・いわゆる地の人と、マンション等に住んでいる人との間で意識に差がみられる。
- ・市営住宅、県営住宅があり、生活水準が高くない世帯も多い。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 生活保護受給世帯、一人親世帯が多い。
- 地区内に開業医が少ない。

【外出支援にかかわる課題】

- 集まる場所はそれなりにある（公民館・コミセン・老人憩の家・自治会館）が、徒歩圏ではない。→何かやっても行かれない。出られない人への対応が必要（これは共通課題とも関連）。
- 病院（市内）への通院

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 地区VC：病院への通院と、地区社協行事や地区内ボランティアグループが開催するミニデイ・サロンへの車送迎を実施している（希望者に対して）。
- 居場所づくり：空き家を活用した居場所を開催している。

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（市から入手）
- 引きこもり、精神・発達障害等が窺える家族への支援状況（市担当課へのヒアリング）
- 集まる場所の一覧化（マップ作成）
- 配達サービス提供の店舗の状況（HP等で確認）

5. 関連資料など

- ・鶴嶺西地区ふくしマップ(2018年保存版)

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 松林 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- 市北東部に位置し、藤沢市と隣接。赤羽根山からふもとに広がる自然豊かな土地。近年は集合住宅も増え、宅地化が進んでいる。
- 地区の西側に茅ヶ崎駅から、東側に辻堂駅から、中央部に茅ヶ崎駅～辻堂駅を通るバス路線がある。新湘南バイパスの北東側に公共交通機関が無い。
- 国道1号線の南側も地区に含む。
- 側道が抜けたため、新湘南バイパスの横断に危険が感じられる。

【土地柄・人など】

- 9自治会で構成され、神社、祭りによるつながりが強い自治会がある。祭りには新たに転入した住民も参加されている。
- 農家、分譲住宅、市営住宅等混在している。
- 各自治会ごとのサロンが増えつつある。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 分譲住宅の地域は高齢化率が高くなっている。
- 通える場を増やしたい。
- 地区VC等の人材確保

【外出支援にかかわる課題】

- 新湘南バイパスの北東側は、山坂になるが、公共交通機関等が無く移動に困難がある。この地域は、商店等も少なく買い物に困難がある。
- 公共交通機関はないが、病院、大手スーパー等の無料送迎車の活用等できないか？
- 福祉施設の車両の活用はできないか？

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 移動については、まちぢから協議会福祉部会にて検討課題に挙げた。
- 通える場については、サロン活動者交流会を実施。30年度は高齢者実態調査後、民生委員から意見を伺う。

【今後取り組みたいこと等】

- 自治会別の高齢化率、世帯構成等の基礎情報
- 移動の交通手段等の把握、活用できる情報の整理
- 店舗等の状況
- サロン等の情報の整理 希望の確認
- ボランティア活動の意向

5. 関連資料など

- 松林地区 ミニデイサロン(平成28年度 松林地区社協30周年記念誌 より抜粋)

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 小和田 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・JR辻堂駅から国道一号線にかけて位置しているため、交通の利便性が高く、ここ数年駅前開発でマンション等の建設があり転入も多い一方、古くからの住民も多い。
- ・交通は平坦が多いので、元気な方は自転車が多い。バスについては、国道を通るものと松林通りを通る2系統がある。
- ・生活圏については、茅ヶ崎駅に出るよりは、辻堂になる。
- ・スーパー、ドラッグストアがある。高齢者住宅や医院も複数ある。

【土地柄・人など】

- ・生活水準は高め（地の方、マンション住人など）
- ・自治会の新規加入促進は積極的に行っている（新しいマンションが出来た際にも働きかけ）。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 辻堂駅の開発に伴い、土地を引き継いだ子ども世代等が売り、分割して分譲されている。→顔見知りの減少がでている。新たな住民の地区活動へ取り込みが課題。
- 公共施設が国道の北にしかなく、集まる場所が少ない。→29年度にできた西口YU-ZUルームの活用の検討
- 古くからの住民は戸建てが多く、高齢世帯、独居などの傾向が多く、ボラセンでも草取りの依頼が多い。
- 片親世帯も増加している。→不登校などの相談が以前より地区に挙がってきている。

【外出支援にかかわる課題】

- 現在はコミセンを中心として事業を行っているのですが、辻堂西口地域の方たちの参加が少ない。西口のYU-ZUルームの活用必要。
- 地区社協主催のイベントで和室でも椅子を使う方が年々増加し、椅子が足りない状況。正座が出来ない方などが来辛くなる。
- バスには、1区間でも乗る方が多い。ボラセンでのサロンも最寄りまでバスで来る方がいる。
- シルバーカーを引いての買い物は荷物を引けて楽な反面、バスに乗るのが困難との話もある。
- コミュニティバスの赤羽根路線の要望を行ったが、困難であるとの回答があった。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 集まる場所について
 - ・積極的にボラセンの活用（貸出も含めて）を行っている。
 - ・新しく出来た辻堂西口のYU-ZUルームを使って地区社協の事業も実施する。→新しい住民を巻き込む機会ととらえている。
- コーディネーター配置事業を実施したことで、児童の問題（不登校、泣いている）やゴミ屋敷？のことなど、参加者の方の気づきが、高齢者以外にも向けられている。

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（町別）
- 集いの場所の確認・活用できる場所の調査→マッピング
- 各種集いの場でのヒアリング（来るまでの手段等）

5. 関連資料など

- ・小和田地区 福祉マップ（2018年保存版）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 松浪 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・生活路は平地。移動は自転車利用も多い（元気な人）。駅は主に辻堂駅を利用。
- ・バス路線は茅ヶ崎～辻堂駅間と、駅・病院が起点のコミバスがある。
- ・大通り（縦・横）にスーパー、ドラッグストア等あり。開業医も複数ある。

【土地柄・人など】

- ・生活水準が高めで、顕在化しにくい課題もある。
- ・市民活動が盛んな土地柄である。
- ・同じ時期にできた住宅地の住民が多い。
- ・学校とのつながりが強い。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

●いわゆる8050世帯があると聞く（親の生活水準が高いことから、高齢でいよいよ支援を必要とするまでは自分で何とかしてしまう）。

【外出支援にかかわる課題】

●集まる場所はそれなりにあるが、徒歩圏ではない（公民館・コミセン・自治会館）。
→何かやっても行かれない。出られない人への対応が必要（これは共通課題とも関連）。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 居場所については、各自治会でサロンを開催している。
- ・地区社協主催の交流会は地区内を5つのブロックに分けて開催することで、できるだけ近くの会場で参加できるよう工夫している。
- ・さらに、今まで公民館と松浪中学校で実施していた地区社協事業について、コミセンでも実施して地区南側の住民の参加も得られるように検討中である。

【今後取り組みたいこと等】

- 高齢化率、世帯構成の変化等の情報（市から入手）
- 引きこもり、精神・発達障害等が窺える家族への支援状況（市担当課へのヒアリング）
- 集まる場所の一覧化（マップ作成）
- 配達サービス提供の店舗の状況（HP等で確認）

5. 関連資料など

- ・松浪地区福祉マップ(2015保存版)

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 浜須賀 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- ・市南東部の縦長地区。桜道、134号線、ラチエン通り、学園通りに接する。地区内を鉄砲道が通る。
- ・公共施設は少ないが、主な通りにはスーパー、ドラッグストア、コンビニ、商店、開業医等あり。
- ・主な通りから中の宅地は道が細く、住宅も密接したクラスター火災危険地域とのこと。広い区画の家も多いが、最近はそれらを分割した宅地やアパート等も増えた。
- ・生活路は起伏が少なく、元気な方は自転車移動も多い。バスは茅ヶ崎～辻堂駅間の東西路線と、茅ヶ崎駅や市立病院が起点のコミバスがある。市外には辻堂駅から出る人が多いよう。

【土地柄・人など】

- ・もとの地の人以外に、気候温暖などから市外から転入し長く住んでいる方が多い地域のよう。
- ・生活や文化水準が比較的高め。自立的な志向の住民が多い印象。こうしたことから顕在化しにくい課題もあると感じるが、地区活動の活性化、連携で見えてきたものも多い。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 集まる場所が少ない。自治会館がほぼなく、地区行事は浜須賀会館が中心だが遠い人も多い。→何かやっても会館まで行かれない。出られない人への対応が必要。
- 高齢世帯、特に独居世帯が心配との声あり（前回実態調査では高齢世帯の約半数が独居と）。また、身寄りがない（いても支援が得られない）方への対応も課題。
- 高齢の親と子ども（引きこもり、精神・発達障害等）の世帯の存在が見えてきている。片親世帯も増えている印象と聞く。

【外出支援にかかわる課題】

- 昼食会（高齢者対象）は、浜須賀会館に近い自治会でも参加が減少傾向とのこと。→1人では行き帰りが困難・心配。家族等の支援が難しい。
- 浜須賀会館の行事もイス利用の希望者が増えた（座敷でイス利用は全面養生が必要など対応難）。→行きたいが、行ってもいるのがしんどい。
- 移動・買い物などは、もっとも海側エリアの高齢者等に不便があるとの話（鉄砲道との接点で生活・交通の便に差が出るように思う）。

4. 課題解決に向けた取り組み など

【課題への取り組み等】

- 地区VC：具体の支援にかかわることで地区の様子が見えてきた。課題のある世帯等の発見・気づきにつながっている。
- 居場所づくり：歩ける範囲（自治会程度）で増やそうとの動きあり。地区懇談会等で継続検討中。
- CO.配置事業：ネットワーク会議での共有で、見えにくかった課題が見えてきた。

【今後取り組みたいこと等】

- 居場所づくりについての取り組み：地区で連携して進めている状況の把握・支援などを継続する。
- 地区内の拠点（集まれる場所）の確認：地区内自治会の単位で聞き取り等が考えられる。
- 外出支援にかかわる課題について：サロン等の活動団体への把握状況の聞き取り（ネットワーク会議等で関係機関も交えて考えられると良い）
- 高齢者実態調査の結果等を参考に地区内で現状や課題の共有を行う。
- ネットワーク会議での事例の共有。

5. 関連資料など

- ・浜須賀地区支援チーム発行「浜須賀地区宅配ミニ情報」（平成27年3月）
- ・住んでいてよかったまちはますか福祉マップ（保存版2016）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 湘北 地区

2. 主な地区特性

【生活・交通など】

- 市の北部に位置し、寒川町と隣接。地区の西部にJR相模線 香川駅がある。
- バス路線は地区の中をコミュニティバスが通り、地区の東部にバスが通る。
- 地区の東部は甘沼の坂がある。
- 昔からの地元の方、築40年超の分譲地、団地、築10年の分譲地と混在する。
- 香川駅前のスーパーや地区中部の生協が閉店するなど、買物に困難がある。

【土地柄・人など】

- 各自治会域でのサロン等の小地域活動が盛ん。
- まちぢから協議会は組織されていないが、地区内団体でそれぞれ活動は行われている。施設、活動者での懇談会が継続的に行われている。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 高齢化率の高い団地や分譲地の地域で、認知症、コミュニケーションが難しい方への課題がある。
- ボランティア活動の後継者の担い手確保
- 若い世代との交流の活発化

【外出支援にかかわる課題】

- 商店が減って買い物等の課題が出ている。
- 移動について／過去の懇談会においても移動の課題が挙げられた。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

- 道路の危険箇所点検を各自治会域で行った。
- 地域ケア会議での検討等を経て、地区内特養で「オトナ食堂」が開始された。
- CO.事業にて「買い物支援マップ」（第3版）作成
- 地区でボランティア入門講座を開催。
- 懇談会でこどもとその親世代向けに福祉の体験まつりを開催。
- 地区懇談会、地域ケア会議、地区支援NW会議でそれぞれ役割分担して課題検討を行っている。

【今後取り組みたいこと等】

- 自治会別の高齢化率、世帯構成等の基礎情報
- 移動の交通手段等の把握、活用できる情報の整理
- サロン等の情報の整理 希望の確認
- 店舗等の状況
- ボランティア活動の意向

5. 関連資料など

- 湘北地区支援チーム発行 「湘北地区お買い物支援マップ（第3版）」（平成30年3月）
- 湘北地区社協「福祉マップ ささえあう わたしたち」（平成29年3月）

地域の支え合い推進シート

1. 地区名 小出 地区

2. 主な地区特性

【土地柄・人など】

- ・市北部丘陵地帯で、面積は市のおよそ5分の1を占めており、古くからの（旧小出村）住民と、開発された大規模団地（ライフタウン）の住民とで構成されている。
- ・福祉施設も多く、また地域としての高齢化は市で一番。
- ・50年前は小出村であったこの地域の結びつきは、今なお連綿と引き継がれ、活動の原点となっている。
- ・まちぢから協議会が平成25年8月に設立されて以来、4部会⇒10部会へと拡大され、地域の主要で活発な組織となっている（※小出はまちぢから協議会のモデル地区である）。

【生活・交通など】

- ・交通について、不便だとの声をよく聞く。
買い物、通院、駅などへ行く際に距離があるため、なにかにつけて遠出になってしまう。
- ・住民のバスの利用シーンが多い。しかし、コミバスと乗合バスの使い勝手が良くないため不満がある。

3. 地区の課題（現在共有されている課題や、地区の方の声など）

- 災害に関する不安が大きい（以前に崖崩れあり）
- 道路の整備が不十分、危険箇所が多数ある
- 一部にゴミの不法投棄が目立つ
- 高齢化問題 ⇒市街化調整区域について市と交渉中。宅地転用が出来ればニュータウンとなり、人の流入が見込める（※30年度の市との意見交換会で要望された）。
- 行政サービスに不安がある
- 地区ボラセンでの課題：Co、Spの高齢化問題／担い手の不足（先導的な方、サポーターともに不足）
⇒利用案内保存版の配布、サポーターの棚卸し、登録用紙の変更、準コーディネーター制の検討

【外出支援にかかわる課題】

- 交通が不便だとの声をよく聞く。
買い物、通院、駅などへ行く際に距離があるため、なにかにつけて遠出になってしまう。住民のバスの利用シーンが多い。しかし、コミバスと乗合バスの使い勝手が良くないため不満がある（乗合バスは委託だが、バス路線と重複しないよう利用ニーズの低いルートを走っている現状）。
- 公共施設が少ない（特にスポーツ施設が欲しい）
- 行政サービスに不安がある。

4. 課題解決に向けた取り組みなど

【課題への取り組み等】

※上記の地区課題については、まちぢから協議会の10部会で検討、解決に向けた動きをされている。

- 外出時の移動手段について
 - ・29年12月より地区ボラセンにて試行的に送迎活動を始めており、その体制強化に向け地区担当が支援している。
 - ・社会福祉部会にて、乗合バスの運営組織の立ち上げが検討されている（利用ニーズの高いルートを運行できるような組織発足 or 支援を検討中）。
 - ・以前からほのぼの小出（ミニデイサロン）では、有志の方が参加者を自家用車で送迎している。そのメンバーを福祉委員から集められないか検討している。
- 公共施設・スポーツ施設の少ない点は、社会福祉部会でグラウンドゴルフ教室実施。他、ねぼしの拡充を模索している。

【今後取り組みたいこと等】

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| ●自治会別の高齢化率、世帯構成等の基礎情報 | ●移動の交通手段等の把握、活用できる情報の整理 |
| ●店舗等の状況 | ●サロン等の情報の整理 希望の確認 |
| ●ボランティア活動の意向 | ●地区ボラセンの送迎活動に利用者数 |
| ●新規サロンの立ち上げの有無 | ●既存サロンの利用者数 |

5. 関連資料

- ・お役立ち 小出地区マップ(平成30年3月)